

持続可能な社会に関する国際大学間連携教育

大橋 眞・斉藤隆仁
徳島大学教養教育院

1. 概要

持続可能な社会を実現することが、グローバルな課題となっている、学生が、留学生や地域の社会人と共に、これに関連した話題について議論をすることは、グローバルな視点の涵養への効果が期待できる。さらに、異なった事情を抱えた海外の大学と連携して、共同プログラムを実施することは、グローバル人材育成に貢献すると考えられる。徳島大学教養教育において実施している国際大学間連携教育の取組について、グローバル教育との関連を中心として、その意義を考察した。

2. 緒言

グローバル教育の必要性は、国内だけでなく、海外の大学においても共通の認識になってきている。そのために、海外の大学から受け入れる留学生を増やすと共に、海外の大学に自学の学生を派遣することに関して、積極的に取り組む大学が増えつつある。世界の大学教育が、グローバル化する社会に対応出来る人材育成を積極的に行うための体制を整備する方向に向けて動いている。このような背景のもとで、世界共通の課題をテーマとする教育を推進することが必要になっている。そのためには、知識偏重の教育ではなく、世界共通の課題に対して、自身の考え方を発言できるような行動力と思考力の育成が必要である。徳島大学の教養教育では、2009年より「地域社会人を活用した教養教育」として、生涯学習に取り組む地域社会人、学生（留学生を含む）及び教員が同じテーブルについて、議論をする形式の授業（学びのコミュニティ型授業）を実施している。この授業においては、持続可能な社会を目指すために、地球的規模での解決が必要な経済・環境・人権・開発・女性などのESD(Education for sustainable development)に関わるテーマを取り上げて、議

論をすることを重ねてきた。また、これらを具体的に体験するために、海外の大学を訪問して学生と交流するプログラムを、教養科目の授業の一部として実施してきた。このような活動に対して、海外の大学生や大学教員が、徳島大学を訪問する活動も実績を重ねてきた。学生が、留学生や地域の社会人と共に、これに関連した話題について議論をすることは、グローバルな視点の涵養への効果が期待できる。さらに、異なった事情を抱えた海外の大学と連携して、共同プログラムを創出することは、大学教育改革にも貢献すると考えられる。

3. 国際大学間連携教育に関する取組

これまで徳島大学とモンゴルの大学が協力して、International student conferenceを開催し、持続可能な社会に関連する議論をおこなってきた。また、スロベニアの大学では、日本から参加する6大学との合同授業が行われている。授業においては、日本と相手校の学生のプレゼンテーションが行われている。マレーシアの大学と、持続可能な社会をテーマとする International conference for sustainable societyを開催した。このカンファレンスでは、学生や社会人も参加する機会を設けている。また、地域社会人が地域の食文化を紹介するための手作りの1品を持ち寄って、昼食の接待を行うと同時に、交流会において地域社会人が、マレーシアの教員と交流する試みを行った。この活動には、学生のボランティアも参加して、ボランティアの体験をする機会を提供すると共に、マレーシアの教員と交流する機会を設けた。このように、持続可能な社会に関する教育を、社会環境の異なる海外の大学と連携して行うことは、グローバルな環境で総合的な視野を育成する機会になり、勉学の幅を広げて教養を深める効果が期待さ

れる。

4. 考察

ESD は持続可能な開発のための教育として、世界共通の教育テーマとしての認識が広がりつつある。これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄のような経済発展型思想から、持続可能な社会の形成のために適切な資源の消費に向かうように、持続可能な開発の視点に立ったあらゆるレベルでの意識改革や具体的な行動を促している。

最近の大学における学部や専攻、専門分野の細分化は、グローバルなものから見方から遠ざかるという一面もある。大学で得た知を現実的に社会で生かしていくためには、細分化された学問の枠を超えて学際的に事象を考察でき、全体的な視野から物事を見ていくということが必要になる。また知識構築のあり方を柔軟に、かつ批判的に見られる目を養う教育を提供する必要がある。そのために、学際的知識の宝庫である大学というグローバルなコミュニティを最大限に生かせる学びの場を提供する視点が求められている。そのために、教養教育が俯瞰的なものを見方を育成する場になる必要があろう。自分は社会とどうつながっていいのか、どのように自分を生かしていいのかについて考え、知る場が必要なのである。さらに、歴史的な観点や、惑星や人類といった大きな視野から、自身と社会のあり方を見つめ、人類全体が共有できる価値観を創出するような、人間としてその生の言味と究極的な目的についての視点を持つことである。今回の取組で形成したグローバルなコミュニティは、このような学際的な視点から物事を見ることの重要性を体験できる機会となったと考えられる。地域社会のあり方が問われる現代社会において、このような国際大学間連携の取組が、地域社会の知的基盤の整備に繋がるということが明らかになった。

今後の課題として、ESD に関する体験学習をする機会を、国際連携教育として導入することが必要であると考えられる。議論と共に体験活動を組み合わせることにより、より効果的なプログラムに発展出来る可能性がある。このように、学生に対するグローバル人材育成において、学生の所属する教員だけでなく、国内外の他大学や地域社会

が連携して取り組むことにより、ESD に関するグローバル教育プログラム開発が可能になると考えられる。



写真1 モンゴルビジネス大学での International student conference



写真2 スロベニア・リュブリャナ大学での国際連携教育



写真3 徳島大学での International conference for sustainable society 交流会